

# 「アフリカに春を」

三井物産株式会社

顧問

上島

重二

うえしま

しげじ



昭和6年8月生まれ。昭和29年京都大学経済学部卒業、同年三井物産(株)入社、米国三井物産副社長、鉄鉱石部長、業務部長、代表取締役社長、会長等を経て、平成12年より顧問。

ヘミングウェイは名作「キリマンジャロの雪」の中で「アフリカで生まれアフリカで育った人は一度は必ずアフリカに戻る」と書いている。一九六五年から四年間、南アフリカのヨハネスブルグに駐在し、主として南部アフリカ諸国を駆け巡った私にとって、この言葉は熱く胸に響く。

私の本業であった資源確保・日本製品の市場開拓の思い出はさておいて、果てしなく美しく過酷なアフリカの大自然、多くの野生動物との感動の出会い、又各階層に亘る多くの黒人達との時には楽しい、時には切ない触れ合いへのノスタルジーが強烈な吸引力となって爾来四十年の間何度もアフリカに舞い戻っている。

私の娘などは、主人の任地であったサウジアラビアを拠点に休暇の都度、ヨーロッパではなくアフリカの大自然・動物の許に里帰りしている。

そこには、過酷な自然環境と、盡きない部族間抗争の中で、貧しい乍らひたむきに

生きていく多くの生命の烈しさと諦観に似た一種の物悲しさがあり我々を引き付けてやまない。

世界の統計によれば、アフリカ五三ヶ国の内三三ヶ国が後発開発国(LDC)に指定され、一日一ドル未満で生活する極貧層の人口は約四億人(全人口の四六%)に達しその多くはサブサハラ地域に拡がっている。

HIVの感染者は実に世界の六六%の二五〇〇万人。五才未満の幼児死亡率は一八%と将に深刻な世界である。

二〇〇五年グリーンイーグルでのサミットでアフリカへの国際支援が中心的議題となり、日本を含め国際社会の幅広い支援活動に拍車がかかったのは「アフリカ大陸の春の到来」を予感させるものと、誠に喜ばしい。

「平和の定着」「経済成長による貧困削減」に加え「待ったなしの人道支援」が三本柱となる。特に人道支援の中では、食糧・水の感染症等への緊急対応に加え、教

育の普及に全力を傾注すべきと思われる。

去る十一月、中国で北京サミットが開催され胡锦涛主席の許、アフリカ四八ヶ国の首脳が参加し、戦略的・経済的パートナーシップの構築が採択されたことは私には衝撃的な出来事であった。

私の記憶によれば一九六〇年代のアフリカ諸国の道路や鉄道建設に当たり、中国は人民軍を派遣し、人海戦術でこれを完成し、更には多くの兵士達が現地に残留し、半世紀に亘り地域社会に融けこんでいる事実がある。

アフリカと云う地域特性を熟知しての息の長い外交政策の実りであるとすれば、畏敬の念すら抱かせる。

アジアは戦後数十年に亘る日本の貢献により今日の繁栄を築いてきた。アフリカに一宿一飯の恩義のある私としては残された最後の大陸への春の訪れを願わずにはいられない。

次号は、(株)東芝相談役、西室泰三氏にお願いします。



小長啓一氏→野々内隆氏→根来泰周氏→石弘光氏→武藤敏郎氏→高橋温氏→増田寛也氏→西澤潤一氏→内田盛也氏→中原恒雄氏→今井敬氏→室伏稔氏→上島重二氏

※本コーナーは、弊会ホームページでもご覧いただけます。